



## 令和6年能登半島地震の被災地に人々の拠り所となる居場所をつくる 「能登みんなの家」プロジェクト

### ●本リリースの要点

1. 被災者の拠り所となる「みんなの家」プロジェクトが、珠洲市、輪島市、能登町の3市町でスタート
2. 計画中の6棟のうち「狼煙のみんなの家」（珠洲市）が日本財団の「憩いの場プロジェクト」に採択され着工予定
3. 東北の「みんなの家」にも参加した建築家や、若手建築家が参加し、地元の団体や自治会と一体となって計画中
4. 「能登みんなの家」は、サステナビリティを念頭に、地域の人々の想いや文化を尊重したあり方を目指す

### ●これまでの経緯とプロジェクト概要

今年1月に発生した「令和6年能登半島地震」は、奥能登を中心とする地域に甚大な被害をもたらしました。家屋の多くが全壊あるいは半壊、水道をはじめとするインフラが寸断され、被災者は過酷な環境下での避難生活を余儀なくされることになりました。10か月以上が経過し、復旧は段階的に進んでいるものの、地理的要因も影響し、さらに時間を要す見込みです。

そのような状況で、以前からインフラに頼らない自給自足の生活を営む人々のなかには、自らの力で復旧を行い日常生活を再開した方もいました。また廃材を利用した薪で風呂を沸かし、いち早く銭湯を再開した若者がいたり、自宅の一角で仮設風呂を提供する住民もいました。さらに、ある集落の住民は避難所の中で復興ビジョンを協議し、早々と未来を見据えた動きをはじめていました。こうした人々のたくましさは、私たちに復興への希望を感じさせてくれるものでした。

HOME-FOR-ALLはそうした地元の人々の力と想いを手がかりとして、被災者の憩いの場になるとともに、彼らの将来に寄り添うような「能登みんなの家」プロジェクトをスタートしました。現在、珠洲市、輪島市、能登町の3市町において、計6棟の「みんなの家」の計画が進められ、設計者と運営者が一体となって検討を行っています。

そのうち「狼煙のみんなの家」（運営：NPO法人奥能登日置らい）が、日本財団が被災地支援のために立ち上げた「みんなの憩いの場プロジェクト」に採択され、工事がまもなく着工する見込みです。ほか5棟についても同様に申請が進められており、採択されれば2026年頃までのオープンが目標になります。

設計にあたっては、能登にふさわしい「みんなの家」のかたちとして、大きく3つの共通の指針をかかげています。

1. 地元の人々の想いをかたちにする
2. 持続可能な自立した建築にする
3. 能登の文化を未来に継承する

今年9月には追い打ちをかけるように豪雨が能登半島を襲いました。「みんなの家」は応急処置にはなりませんが、住民主体による復興への確実な足がかりとなるはずです。この活動を多くの方にご覧いただきとともに、支援の輪が広がることを切に願い、報道機関ならびにメディア関係のみなさまに、ご協力をお願い申し上げます。

## ●メッセージ

能登半島地震で被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

能登のみなさまがこれまで地域の自然と文化と人を愛し育てて来られた姿を目の当たりにして、私たちは建築家として可能な限り寄り添いながら復興の姿を描いていきたいという思いを強くしました。

人々が交わりながら未来を思い描く、そのような場所は震災復興に限らず現代日本が求めているものかもしれません。能登みんなの家を通して普段気付くことができなかつたことに多くの人が目を向けることができるよう、仲間とともに力を尽くしていきたいと思ひます。

クライム ダイサム アーキテクト（「狼煙のみんなの家」設計担当）

## ●「能登みんなの家」の3つの指針

### 1. 地元の人の思いをかたちにする

「みんなの家」を運営するのは、自身も被災者である有志の方々が集う団体です。今なお日常生活すらままならない状況のなかで、能登の未来をみすえた活動をはじめています。個性ある運営者のビジョンを設計に反映することで、その地域で中長期にわたって活用され、地元の人々の手で成長させていけるような柔軟な「みんなの家」を目指します。

【例】 馬と触れ合う場、漁業団体の活動の場、公園のようなまちづくり、囲炉裏やかまどのある食堂  
大きなキッチン、お風呂、コワーキングスペース

### 2. 持続可能な自立した建築にする

豊かな自然環境のなかに集落が点在する能登半島では、震災以前よりメガインフラに依存しない自給自足生活の土壌があります。能登における「みんなの家」は災害に強く、自然環境を味方につけるようなオフグリッドな施設計画とし、その価値を発信する場になることを目指します。またその地域独自のなりわいを担う拠点にもなることで、自立した運営体制をつくります。

【例】 コンポストトイレ、太陽光発電、井戸水の活用、薪の活用（薪ストーブ・薪風呂）、瓦による環境負荷低減

### 3. 能登の文化を未来に継承する

能登ではそこで育まれてきた特色ある文化があり、地元の人々の多くはそれに誇りをもっています。被災によって建物は壊れ、産業も存続の危機に瀕していますが、「みんなの家」はそうした文化を後々に伝えていく場を目指します。建物に用いる材料の選定や、既存施設や地域活動との連携によって、個性豊かな「みんなの家」をつくります。

【例】 救出した能登瓦の再利用、下見板貼り、番屋の保存活用、里山の食文化の継承



地元住民とのディスカッション。珠洲市狼煙町では自主的に復興ビジョンの検討が行われてきた



薪や井戸水を利用した仮設風呂や洗濯場の視察。珠洲の地元住民が被災直後から無償提供している



黒瓦や下見板貼りの建物、入り組んだ地形と海岸線による能登らしい風景

## ● 「能登みんなの家」の計画概要 1

※計画は発表時点のものであり変更になる場合があります  
※掲載画像の著作権は各設計者に帰属します

### 1. 狼煙<sup>のろし</sup>のみんなの家

能登半島の最奥地で、道の駅と仮設住宅の隣接地。地元で愛される2本の桜の傍に計画。屋根はリサイクルした能登瓦、外壁は下見板貼りで、能登で親しまれてきた建築の諸要素を継承しながら未来に向けたみんなの家らしい建築を目指している。震災以前に地元住民が集っていた神社の仮宮や、集会所の機能をここに集約し、祭事や地域活動の拠点として、また人々が集う食堂や飲み屋にもなり、地元の人と狼煙に訪れる人が未来について語りあえるような心地よい場所をつくる。



【運営】NPO 法人奥能登日置らい

【設計】クライン ダイサム アーキテクト

### 2. 鉢ヶ崎<sup>はちがさき</sup>のみんなの家

現在多くの仮設住宅が建設されているレジャー施設が集まる地域、その一角にある珠洲ホースパークの敷地内に、馬を通じて互いに心身をケアする空間とした、人々が集まるきっかけとなる居場所を計画している。仮設住宅の住民や地域住民、復興支援者や復旧工事に携わる方々などが立ち寄れる食堂や、馬の様子を眺めながら学びに集中できるワーキングスペース、こどもの遊び場にもなる小上がり、屋外のシェアキッチンが点在し、その間を屋根のある半屋外空間がつなぐ。オフグリッドを推進する一般社団法人みんなの馬が運営する。

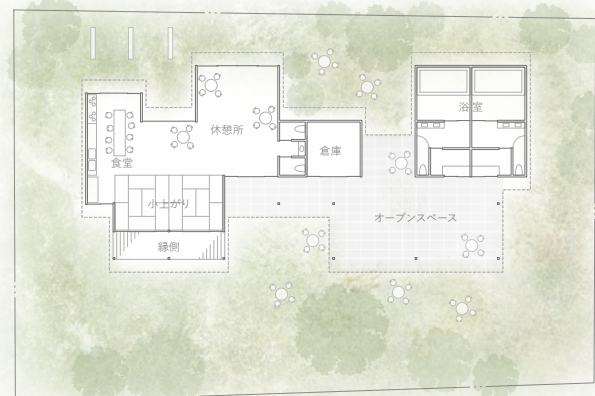


【運営】一般社団法人みんなの馬

【設計】EIKA studio + o+h + 伊東豊雄建築設計事務所

### 3. 大谷<sup>おおたに</sup>のみんなの家

大谷町は外浦に面した能登半島のなかほどに位置する、黒瓦のおだやかな町並みが印象的な海沿いの町である。目的がなくてもみんながふらっと立ち寄れるような場所、そして隣接する小中学校との連携も考え、様々な催しや野菜の即売所等ができるような充実した半外部空間が求められている。この地域に長く続いてきた歴史や文化を次世代に継承し、さらに豊かなものにできるようなみんなの家にしたいと考えている。



【運営】NPO 法人外浦の未来をつくる会

※法人設立準備中

【設計】近藤哲雄建築設計事務所



## ● 「能登みんなの家」の計画概要 2

※計画は発表時点のものであり変更になる場合があります  
※掲載画像の著作権は各設計者に帰属します

### 4. 飯田<sup>いいだ</sup>のみんなの家

商店街の中心部に計画。寺子屋や銭湯を運営する若手移住者が主体となり、学びやまちづくりに取り組む団体が運営。周辺のプレイヤーと連携しながら、「公園のようなまち」としての復興をめざす拠点となる。建築はラフな仕上げとし、運営しながらDIYなどで発展させていく。夜間にはぼんぼりのように周囲を照らし、まちのシンボルになる。

【運営】NPO 法人ガクソー

【設計】PERSIMMON HILLS architects



### 5. 深見<sup>ふかみ</sup>のみんなの家

輪島市中心部から白米千枚田に続く国道249号沿いに、7つの集落が広がる深見町は、農業・漁業・林業といった人々の生業と自然の均衡が生み出す、里山里海の風景が美しい町である。地震や豪雨によって失われた風景を再生するため、生業を創出し、豊かな生活文化を継承する「竈と囲炉裏のある食堂」と「地域をケアする浴場」を計画している。樺や椴の林業で栄えた集落の記憶を残すために、解体家屋の古材の活用も検討している。

【運営】NPO 法人紡ぎ組

【設計】式地香織建築設計事務所  
+ 松田彩加建築設計事務所

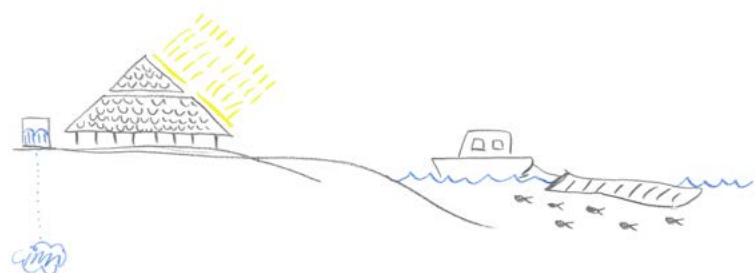


### 6. 鵜川<sup>うかわ</sup> みんなの番屋

敷地は石川県能登町南部、漁業で栄えてきた鵜川町のまちの中心に位置する。鵜川町には約300世帯の人々が住んでいたが、震災により70～80世帯が仮設住宅に移ることを余儀なくされた。鵜川町のみんなの家は、漁業というまちの生業に着目し、鵜川町ならではのみんなの家とすべく、魚をテーマにした食堂を通して再びみんなに開かれたコミュニティの場をつくっていきたいと考えている。震災を機に立ち上げた「まちづくり推進委員会」と建築家と一緒に復興のシンボルをつくる。

【運営】一般社団法人能登を紡ぐ  
※法人設立準備中

【設計】工藤浩平建築設計事務所  
【アドバイザー】妹島和世



## ●「みんなの家」とは？

「みんなの家」は、2011年の東日本大震災を受けてはじまったプロジェクトです。被災地で家を失った人々のために、建築家と住民が対話を重ね、人々が集まり、ともに居心地よく過ごせる、もうひとつの家を目指してつくられました。その活動は自治体や全国の企業、団体の支援によって広がり、東北では16棟、地震や水害に見舞われた熊本では、規格型を含む約130棟以上が建設されています。

## ●実施体制・関連情報

### 【設計担当】

クライン ダイサム アーキテクト（狼煙）、EIKA studio + o+h + 伊東豊雄建築設計事務所（鉢ヶ崎）、近藤哲雄建築設計事務所（大谷）  
PERSIMMON HILLS architects（飯田）、式地香織建築設計事務所 + 松田彩加建築設計事務所（深見）、工藤浩平建築設計事務所（鶴川）

【プロジェクトコーディネーター】吉川優子（クライン ダイサム アーキテクト）

【運営コンサルタント】松村拓也

### 【HOME-FOR-ALL コアメンバー】

伊東豊雄、妹島和世、アストリッド・クライン、マーク・ダイサム  
久山幸成、柳澤潤、大西麻貴、百田有希、近藤哲雄、岡野道子

### 【連携自治体】

珠洲市、輪島市、能登町

### 【連携団体】

瓦パンク、能登復興建築人会議

## ●今後の動き

2024年8月～ 基本設計、実施設計、運営法人設立準備  
2024年12月～ 「狼煙のみんなの家」着工、ほか順次着工  
2025年4月～ 運営準備、ワークショップ  
2026年春頃～ 順次オープン

## ●関連イベント

JIA 神奈川主催「能登のみんなの家について」

日時：12月7日（土）15:30～18:30 会場：関東学院大学 関内キャンパス

登壇：柳澤潤（HFA 理事）、竹内申一（金沢工業大学）、久山幸成、工藤浩平、廣岡周平、榮家志保、松田彩加、近藤哲雄（「みんなの家」設計担当）

※ JIA 神奈川 (<https://www.jia-kanto.org/kanagawa/topics/2839.html>) の HP より要申込、オンライン配信あり

## ●寄付・賛助会員募集

能登みんなの家への寄付を募集します。寄付金は運営支援、各みんなの家の連携促進、能登や東京での周知イベント開催等に使用させていただきます。また HOME-FOR-ALL の活動理念に賛同いただける法人を対象に、団体賛助会員（1口10万円/年）を募集します。  
※ HOME-FOR-ALL は認定 NPO ではありませんので、寄付者は税制優遇を受けることはできません。あらかじめご了承ください。

本件についての取材等のお問い合わせは以下までお願いします。  
特定非営利活動法人 HOME-FOR-ALL 事務局（担当：西尾）  
メール：info@home-for-all.org

特定非営利活動法人 HOME-FOR-ALL（理事長：伊東豊雄）

住所：東京都中央区日本橋浜町3-10-1 メール：info@home-for-all.org HP：<https://www.home-for-all.org/>  
Youtube：<https://www.youtube.com/@home-for-all> Instagram：[https://www.instagram.com/homeforall\\_jp/](https://www.instagram.com/homeforall_jp/)